

研究・調査報告書

報告書番号	担当
15	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol screening scores and all-cause mortality in male Veterans Affairs patients. 男性退役軍人患者におけるアルコール・スクリーニング・スコアと全死亡率	
執筆者	
Kinder LS, Bryson CL, Sun H, Williams EC, Bradley KA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J. Stud. Alcohol Drugs 70: 253-260, 2009	
キーワード	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>広範囲な研究は、詳細な面接によるアルコール摂取量の測定と死亡率との間に J か U 字型の関連を示す。アルコール・スクリーニング質問票と死亡率との間の関連についてほとんど知られていない。この研究は Alcohol Use Disorder Identification Test-Consumption 質問票 (AUDIT-C) におけるスコア(0~12)と死亡率との間の関連について調べた。</p> <p>方法：</p> <p>このコホート研究は、郵送による調査(1997-2000年; n=34,292)であり AUDIT-C を完成した、7つの退役軍人事務局(VA)医療センターの外来男性患者を含み、平均 2.5 年間フォローした。死亡は VA データベースから確認された。</p> <p>結果：</p> <p>人口動態を調整した分析では、U字型の関係が AUDIT-C スコアと全死亡率との間に観察された。少量飲酒者(AUDIT-C 1-3)と比較して、非飲酒者(AUDIT-C 0)と大量飲酒者(AUDIT-C 8-9 および 10-12)は、死の危険が増加した：それぞれ危険率(HR)=1.41(95%の信頼区間[CI]: 1.29-1.54)、1.32(1.0-31.69)および 1.47(1.14-1.91)。この関連は年齢集団で交互作用を認めた(p=.003)。AUDIT-C 1-3 の少量飲酒者と比べ、50歳未満の男性では、AUDIT-C 10-12 が高い死亡率と関連し(HR=2.21、95%の CI: 1.29-3.77)、50歳以上の男性では、非飲酒者(AUDIT-C 0)が高い死亡率と関係した：50-64歳で HR=1.45(1.19-1.77)、65歳以上で HR=1.42(1.28-1.58)。</p> <p>結論：</p> <p>AUDIT-C と死亡率との間の U字型の関連性は、年齢集団による重要な違いと共に観察された。これは、長い観察期間を必要とする疫学研究で観察された死亡率との関連と同様な結果をアルコール摂取に関する質問票でも得られた、最初の研究である。</p>	